

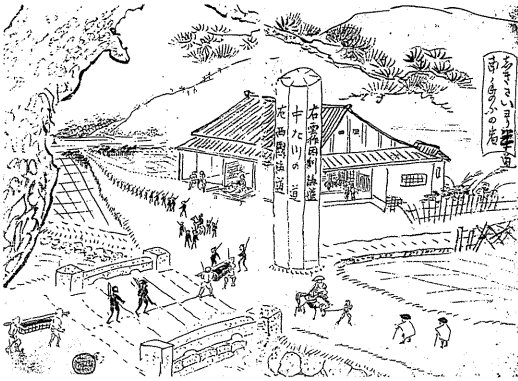


『安室郷』をたずねて

現在の高岡・安室地区は、『播磨国風土記』の時代に韓室里・巨智里とよばれた地域にあたり、その後、安室郷と変更され、その地域も時代により変化した(下手野は余部郷に属した)。江戸時代の「安室郷」は旧安室村・高岡村・曾左村の地域を指すが、この見学シリーズでは、旧安室村・高岡村(現在の高丘中学校・安室中学校区)を中心に文化財をたずねてみたい。

当地域は、夢前川の氾濫によってできた沖積平野で、御立の北山周辺に多くの古墳が発掘され、麓の平地にも数カ所に遺跡が確認されている。風土記には、渡来人系の人たちによって開発された記述がある。中世は書写山円教寺とのつながりのなかで発展してきた。

かつては農業中心の地域で、大正9年には高岡南部に県立の種畜場(昭和38年まで)、昭和37年には安室地区に姫路市立宮農試験場(昭和44年に農業センターと改称し、昭和55年山田町に移る)も設立された。しかし、宅地造成がすすみ、人口が高岡地区は昭和30年代中頃から40年代にかけて、安室地区は40年代から50年代にかけて急増し、住宅地として大きく変化発展している。



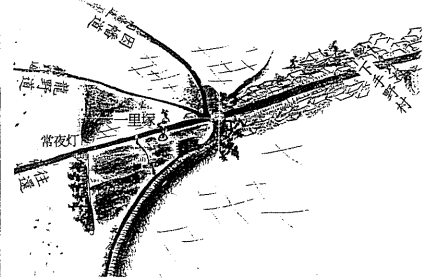
下手野付近 (慶応年間の道中記より)

絵図の右に「しきさいヨリ半道 南手のふの宿」、中央に「右雲州因州海道 中たつの道 左西国海道」とある。



下手野の道標

明和4年(1767)



下手野の一里塚と往還

(明治9年の下蒲田村絵図から)

下手野の道標 法然上人の生誕地、岡山県美作の誕生寺への道標。明和4年(1767)に造立。「右第一番みまさか誕生寺道 左たつの道」と記されているように、この地は西国街道(山陽道)から美作・因幡道・龍野道への分岐点で、付近には宿場もあった。今も小川をはさんで五叉路になっている。

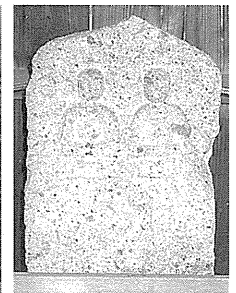
一里塚 下手野の道標のすぐ西にあった。明治9年の下蒲田村絵図によると、道の両側に塚があったことがわかる。一里塚は約4キロメートルごとにエノキ・松などの木を植えて土を盛ってつくった。西国街道では姫路市内に下手野と西御着の2カ所に設けられた。

下手野の常夜灯 西国街道が夢前川にさしかかる旧堤防に近い民家の前にある。常夜灯の台石に文政10年(1827) 桔梗屋と刻まれている。この近くに夢前川の渡し場があり、対岸の青山にも道標がある。

道祖神 西今宿三丁目の公園で「茶屋の地藏さん」とよばれて祭られている。この辺は茶屋や宿屋もあった。姫路地方では、道祖神・才の神・道辻社が混同してよくわからないところがあり、下手野との境として祭られたのかもしれない。



下手野の常夜灯



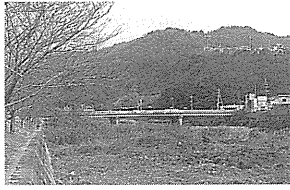
道祖神

夢前川と横関 夢前の名は、

『播磨国風土記』に記された「射目前」か「夢前ノ丘」に由来するという。また、同書

には、この川を「手沼川」といい、

応神天皇が、ここで手を洗われたとある。この川は、はじめ山吹山で分流し、蛤山の東麓を南流して今宿から荒川に至る流れが主流であったという。今の流れは、明暦2年(1656)姫路藩主榊原忠次が、横関に堰を築いて流れをかえ、菅生川に合流させたもの。



上部に観音像を彫った道標を記る

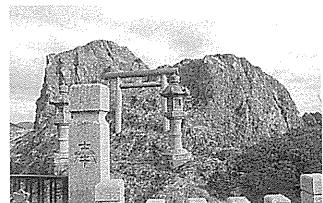
寛政十年(二七九) 国土地理院発行地図

高岳神社道標 西国街道の西今宿三丁目の公園のすぐ東にある。正面に「式内高岳神社」、左に「北在五丁」、背面に「庚午閏年(明治3年)10月 姫路藩庁」、右に村民30人の名が刻まれている。

蛤岩 高岳神社のすぐ北の山頂にある大岩。大岩の上の少くぼんだ所にたまった水が潮の干満と同じように上下するという話が伝わる。また、この岩山やその周辺で蛤の化石が発見されたという。

高岳神社 「延喜式」に記載されている式内社。はじめは田寺と新在家の境にある高岳(八丈岩山)の鶯が巢にあったが、平安時代初期に現在地へ移ったという。祭神は、仲哀・応神天皇などで、かつては御立・田寺・新在家・辻井・上手野・東今宿・西今宿・北今宿の氏宮であった。神社社務所前に元禄14年(1701)銘のある手洗石がある。

津古根山古墳 蛤池すぐ北の山麓(現在は藤ヶ台)で土をとっている時に、亀甲型陶棺と須恵器が発見された。



蛤岩



高岳神社

蛤山古墳 高岳神社社殿裏の山頂から北の峰に移るところで、昭和15年、上手野の少年たちが露出していた古墳の蓋石を取り除いた時、その下の箱式石棺から人骨を発見した。

旧高岡村道路元標 今は東今宿の公園になっているが、旧高岡村役場のあった所である。路線の起点・終点・経過地を示す標識で、大正9年(1920)兵庫県告示によって飾磨郡内の27か所に設置された。

力石 西今宿三丁目長久寺西の地蔵さんの前に5個の力石がある。その一つに、「明治卅七年二月 当村 ハツ頭勇太郎持之」と刻まれている。東今宿の薬師堂にも5個、高岳神社社務所前にも1個ある。

昌楽寺 東今宿に寺跡あり。長保の頃(11世紀初め)、播磨大掾巨智延昌が建立。花山法皇が二度にわたる書写山御幸の際、当寺に立ち寄られた。前の薬師堂横に石碑がある。

西源寺の東山焼灯籠 東今宿の西源寺境内にある。姫路城下の男山で焼かれた磁器の灯籠。灯籠台部上方に「法勝寺(六勝寺の一つ、白河法皇御願の寺)の執行俊寛僧都自営の灯籠…」と、灯籠の由来などが記されている。安政6年(1859)製作。

射撃場跡 明治30年の「参大日記」に土地買収の記録があり、おそらくそれ以後につくられた陸軍の射撃場。終戦とともに廃止され、昭和22年に高丘中学校、同24年に関西電力姫路変電所などができた。高丘中学校には銃弾の的になった土手の一部が今も残っている。

神子岡の題目塔 右側に「元祖第四百遠忌報恩徳建立之」と刻まれ、日蓮の四百遠忌にあたる延宝9年(1681)に建てられたもの。同宗では各地で盛大な報恩会が行われたようで、同じ月日付の題目塔が白浜町宇佐崎や坂田町にもみられる。

今宿の牛市 神子岡にあった。国道2号線をまたぐ形で、今は自動車販売会社などになっている。この牛市は明治のはじめのころより開かれていたようだが、記録に出てくるのは明治16年。株式会社になったのが明治36年。牛は主に岡山や鳥取・九州・四国の農家から集められ市はすこぶる賑わったが、昭和32年を頂点に衰退していった。

名古山遺跡 弥生時代の土器や石器と古墳などが発見された。なかでも東斜面で発見された弥生時代中期の住宅跡から銅鐸の鋳型が出土した。この鋳型は従来の砂型説のものでなく、砂岩製である点が学問上の貴重な資料となっている。

辻井遺跡 辻井字東藤ノ木にある。縄文時代中期から弥生・古墳時代にまたがって多くの土器・石器などが出土した。ここで発見された人骨は縄文中期のものといわれ、県内では数少ない発見である。

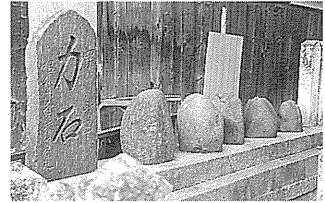
辻井廃寺跡 白鳳時代の寺跡。辻井字藤ノ木の田の中に礎石が残っている。古瓦なども発掘。昭和57年には安室バイパスが計画され、その時の調査で僧坊跡らしき遺溝や井戸が見つかった。名古山にここから出土した3個の礎石が運ばれている。辻井の西蓮寺境内にもこの廃寺跡のものだという礎石や石棺の一部が庭石として置かれている。



道路元標



東今宿薬師堂の力石



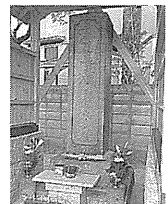
西今宿地藏堂の力石



現在の昌楽寺とその石碑



東山焼灯籠



神子岡の題目塔



射撃場(昭和13年)



名古山遺跡



辻井廃寺の礎石

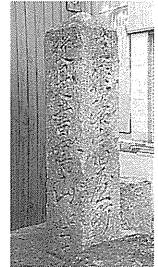
行矢神社 辻井にある。神功皇后が麻生山から三本の試し矢を射たところ、その一本がこの地に落ちたという。神社は、はじめ矢落村（新在家）または八丈岩山に鎮座していたが、のち今の地に遷された。延喜式神名帳に記載された「射楯兵主神社二座」はこの神社を指していると、播磨国総社の射楯兵主神社との間で本家争いの論議があった。



行矢神社

草上駅跡 大和朝廷は中央と地方の連絡を密にするため、全国の主要な道路の適当な場所に「駅」を設けた。この駅は10世紀初めの「延喜式」に記されている。風土記に記された「草上村」に置かれたのだろう。その位置については、山吹説と辻井説があるが、最近では本町（遺跡）説もある。

草上寺跡 慈覚大師円心の八講始行の寺で、10世紀末に花山法皇が建立。嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱で全焼したあとと再建されなかった。山吹にあったという説が有力。



田寺の道標

田寺の道標 田寺三丁目にある。「^{これより}従是書写山_江二十丁 左姫路宿屋町_江二十五丁 右車崎六丁目道」、背に「文久二年」（1862）と記されている。ここから御立の四軒屋を通り書写へ至る巡礼道にもなっていた。



御立の前山

六本の御^{みその}藪 田寺の字「六本」は、古くは「六本松」とある。「播陽うつゝ物語」に、後醍醐天皇（安室郷を書写山円教寺に寄付）が書写へ登山のおり、書写政所藤原信綱の娘小柴が六本の松井の辺に御藪を構えた話がある。書写政所がここに置かれたという説もある。明治頃まで六本松の株が残っていたという古老の話があった。



勝瑞寺の梵鐘

御立前山 播磨国風土記に、応神天皇が丘に立って地形を見られたところから、「オホミタチ」と名づけられたという説があり、その丘が今の御立前山をさすと考えられている。

勝瑞寺梵鐘 御立中にある。はじめ天台宗であったが、文明16年（1484）に浄土真宗の寺となる。この寺の梵鐘は、寛政6年（1794）の追銘があるが、もと廣峯神社にあったもので、明応6年（1497）の作。姫路野里の鋳物師の名が鐘銘に現れた最初のもの。市指定文化財。



住吉神社

住吉神社 御立の氏神。境内に文化13年（1816）・弘化2年（1845）の手洗い石や、文久2年（1862）奉納の狛犬がある。



北山の道標

御立の古墳・遺跡 小規模だが北山の馬瀬古墳群・大谷古墳や河野遺跡・桧尾遺跡など多くの遺跡が確認されている。

北山の道標 御立北にある。一つは安政3年（1856）で、「左しょしゃさん道 右ほっけさん・ひろみね道」などあり、もう一つは安政6年（1859）で、「左ひろみね・ほっけ山ミチ 右書写山鹿谷道 左たつの・むろつ・びぜん・あぼし道」とある。この道は書写山と法華山を結ぶ巡礼道であった。以前にはもう一段上の中腹に近道があり、その道のほうがよく利用されていたという。

薬師堂 書写山・廣峯山・法華山へ通じる道沿いにあたる。火袋の部分が補修されているが、万治3年（1660）の石灯籠がある。



薬師堂